

平成 30 年 8 月 13 日

厚生労働省 看護基礎教育検討会
座長 遠 藤 久 夫 様

一般社団法人日本地域看護学会
理事長 宮 崎 美砂子

看護基礎教育における地域看護学の必要性和教育内容・方法に関する要望

医療の高度化、入院期間の短縮化等に伴って療養場所も多様化し、看護職、殊に看護師の働く場所も拡大しています。また、少子高齢化、健康格差の拡大、多発する災害など、人々の暮らしを脅かす様々な社会的な課題も増え、安全で安心できる、より健康な地域社会をつくることが一層重要になっています。

地域看護学は、健康の維持、増進、回復、健康状態の悪化予防、安らかな死の実現を通して、すべての人々の QOL の向上とそれらを支える公正で安全な地域社会の構築に寄与することを目的としています。

地域包括ケアの重要性が認識され、看護師の活躍の場が地域に拡大していく時代に、地域で暮らす人々の健康ニーズを捉えて最適な対応をするとともに、地域全体を視野に入れて人々の健康をまもる地域看護学の考え方・理念・方法論は、あらゆる看護職が共通に持つべき知識および技術です。卒業後どのような分野の実践に携わろうとも、学生は看護基礎教育における地域看護学の学修を通して、将来不可欠の知識・技術・態度を卒業時に修得することができると考えます。

また、助産師教育のコア科目である助産学の基盤として母性看護学があり、これは看護職者に共通して必要な教育内容としてすでに看護基礎教育の中で必須科目となっています。これと同様に、地域看護学を保健師教育のコア科目である公衆衛生看護学の基盤として、かつ看護職者に共通して必要な教育内容として、看護基礎教育の中で必須科目として教授される必要があると考えます。

この観点から、将来を担う看護職への看護基礎教育の内容として地域看護学を位置づけていただきたく、貴検討会での議論に組み入れていただけますよう要望いたします。

要望事項：地域看護学を、看護師の教育内容として統合分野に位置づけること

「地域で暮らす人々の健康と地域全体を視野に入れた健康をまもる看護」の観点から、看護師の基礎教育に盛り込む内容は別紙の通りです。

地域包括ケア時代に求められる看護基礎教育の強化 ——看護師教育課程に必須の地域看護学の内容と教育方法——

地域看護学に関する科目は、看護基礎教育において「地域で看護を提供する際に不可欠の考え方・技術を学修する」ものとして、看護師教育課程の統合分野に位置づけることが妥当と考えます。この科目を通して、地域で暮らす人々のニーズを捉える能力と、地域全体を視野に入れて人々の健康をまもる看護の視点が付与されます。教授する教育内容と身に着けるレベルは以下の通りです。

1. 「地域で暮らす人々の健康をまもる看護活動」について理解し、指導の下で実施できるようにするための教育内容

- 1) 地域で暮らす対象をアセスメントできる：個人・家族の多様性（文化・慣習・民族・生活・健康観・価値観・生きる力）を理解し、家族をシステムとして、その生活を構造的に捉え、アセスメントできる。
- 2) 対象が暮らす地域の特性をアセスメントできる：対象の健康状態の背景および資源／生活基盤としての地域を理解し、対象の健康状態と地域の特性との関連をアセスメントできる（地域特性、歴史、社会構造、保健医療福祉システム、関係職種・機関など）。
- 3) 対象が暮らす地域の特性に基づいて必要なケア資源を提案できる：地域のアセスメントの結果から、対象の健康を保持増進し疾病を予防するために不足あるいは充実すべきケア資源を把握し、提案できる。
- 4) 地域で暮らす対象の健康をまもり、自らが望む暮らしを実現できるよう支援する看護について理解し、指導の下で実施できる：地域を包括的に理解し、対象の生活の質と健康の向上をめざす看護を、対象の生活の場（自宅、学校、事業所、施設等）に応じて実施できる。
- 5) 対象を支援するための多職種連携・協働・調整の方法を理解できる：対象に関わる多くの職種の専門性や役割を理解し、連携・協働・調整、チーム医療の在り方、効果的な方法を説明できる。

2. 地域全体を視野に入れて人々の健康をまもる看護活動を理解し、説明できるようにするための教育内容

- 1) 看護の対象となる「地域で暮らす人々」を理解する：地域で暮らす個人・家族を連続体として捉える（生涯にわたり成長する人・行動変容できる人、など）とともに、各々が地域社会の構成員であり、人々や環境と多様な相互作用／関係性を持っている人として理解できる。
- 2) 人々の健康に影響を及ぼす生活の場としての「地域」を理解する：地域で暮らす人々の健康問題の発生や健康の回復に影響を及ぼす、生活の場としての「地域」を理解する視点を持つ。また、地域には、健康格差や健康障害が潜在すること、それを把握し、健康への影響を予測する必要性が理解できる。

- 3) 「地域」が看護の対象となることと、その方法を理解する：看護の対象として地域を捉える視点を持つとともに、地域と人々の健康づくり、疾病や障害の予防に関するアセスメントの方法を理解できる（主要な健康・環境問題に関する地域アセスメントや各種調査、サーベイランスなど）。
- 4) 健康の保持増進と疾病予防の方法および支援技術について理解する：健康問題の発生リスクを持つ個人・集団を把握し、それらの人々の健康の保持増進と疾病予防のために必要な支援方法を選択し、提供するための方法が理解できる。また、個人・家族・集団・地域の健康の保持増進、疾病予防の能力を高めるために、地域の自助・互助組織等の育成と地域の人々の健康状態のモニタリング・評価の必要性と方法を理解できる。
- 5) より安全で安心な地域づくりに向けた看護マネジメントの役割と機能を理解する：地域で暮らす人々へ、安全で安心できる質の高い看護を提供するために必要となる、倫理的な配慮、援助の環境づくり、援助の質の担保について、看護マネジメントの点から理解できる。また、危機を回避するための予防措置を行うことが理解できる。

3. 演習・実習方法の例示

対象の健康や生活を経年的かつ長期的な視点で把握し、看護を展開できるようにするための演習・実習として、事例の対象理解と、その事例が暮らす地域のアセスメントの双方を目的として設定するために、以下の例 a～e などが考えられます。

- a. 地域イベント（健康まつり）や住民組織活動（サロン）等への参加を通じた地域住民との交流
- b. 協力の得られる地域住民宅への継続的な訪問による体験学習（経年的な視点を養い、協力者の長所と潜在的な健康課題を把握し、対処について工夫できる）
- c. 支援の必要な地域住民の把握と健康相談、健康教育
- d. 居住設備の整った家と事例を用いた体験学習
- e. 療養している個人・家族の願いに叶う生活（障害児が学校に通いたい等）を実現するために、地域に存在する資源を探し、活用可能にする方策や働きかけの方法を検討する
- f. 地域包括支援センターにおける地域住民や多職種と協働した地域看護活動

4. 位置づけ

地域看護学は、看護師教育課程で「地域（多様な場）で暮らす人々への看護を提供する際に不可欠の考え方・スキルを学習する」ものとして、統合分野に位置づけることが望ましいと考えます。

以上